

発行
平成27年
2月6日
復刊 第79号



発行 者
長野県下伊那農業高校
同 窓 会
TEL (22)55550
FAX (53)0339
編集・発行
同 窓 会 幹 事 会
印刷 龍 共 印刷

創立百周年事業に御協力を

同窓会長 岩 崎 和 男 (高9回卒)



同窓会員の皆様方におかれましては、日々御健勝で御活躍の事と拝察しお慶びを申し上げます。又母校発展のため、そして同窓会の躍進のために御尽力、御協力をいただいております事に心より感謝申し上げます。力不足の私でございますが、同窓会員の各位の御協力によりまして二期目も後半に入り、無事勤めさせていたただいております事、合わせて感謝申し上げます。

平成二十六年は、自然災害の多い年でした。二月の大雪により飯伊地方も多大な雪害を受けました。県下を見ますと、南木曾の土砂災害や御嶽山の噴火、小谷、白馬の地震等大災害に見舞われましたが、その地方の早い復旧を願う所でございます。

さて、同窓会も創立百周年に向けまして校内幹事の先生方を中心に取組みを始動しておりますが、この百周年は、我が母校にとりまして大きな節目の年であります。そ

の為に基本となる具体的な取組の骨子が各支部長さんを通じお示しができる運びとなる事と思っております。母校は、大正九年にこの地域の農業振興を願って郡立下伊那農学校としてこの稲井ヶ丘の地に開立されました。その後幾多の変遷を経て今日に至っており、平成三十二年に創立百周年となります。

この年は丁度東京オリンピックの年と重なり記念すべき年となります。

卒業生は、創立以来一万八千名を超えており、地域の農業発展はもとより、産業界の発展さらに、地域の各団体の指導者として活躍、貢献されております事は、御同慶に存する所でもあります。

校歌の一節にもあります「農は我らの命かな」の大切さを更に認識し、地域社会の為に更なる高等学校として発展されます事を切望する所であります。

創立百周年記念事業を通して、本校の二世紀に渡る教育活動を振り返り、新しい時代の学校のあるべき姿を求めて更なる発展を期したいと考えます。

この様な考え方に基づくべき対応のため、同窓生皆様

方には多大な浄財の御協力をお願いする事になると思っています。今後各支部長さんにはお骨折りをいただかなくてはなりません。同窓生の皆様に絶大な御協力をお願い申し上げます。

今下農の生徒達は、大変素晴らしい活動活躍しております。全国的な種々の大会に於いて、又、地域と一体となつての活動等実践的な学業に取組まれて、それらは多くの新聞で紹介されており、同窓会としても喜ばしく思

うと同時に、出来る限り活動に対して協力、支援をして参りたいと思つて居る所であります。

昨年より新法律に合った一般財団法人稲丘会が運営の運びとなりました。先輩方が残して下さいました貴重な財産を守りながら学生達の活動支援や、学力の向上に資する様な運営をして参りたいと思つております。同窓生の御意見等を賜れば幸いです。

現在、在校生の半分以上が

ご挨拶

学校長 遠 山 善 治 (高26回卒)



このこと。電話の主は初代校長芝原彦十先生のお孫さん西野良子さん。親しくお話をさせていただきました。

この電話が縁で三か月後、東京杉並区の西野さんのご自宅にお邪魔しました。西野さんは九十二歳のご高齢ながらも矍鑠として開校当時の学校の様子等お話をしていただきました。当時の生活を知らずには一級品の史料ではないかと思ひますので、百年誌等でご紹介させていただきます。いつか力パンの中に下農の校舎全景のハガキを入れていて、時々見ると懐かしんでいるとのことでした。帰り際に、百周年記念事業のお祝いに

同窓会の皆様には、健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校の教育に対しましてご支援ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

いよいよ今年から、創立百周年記念事業実行委員会が組織されて本格的に始動することとなりますので、何卒ご協力をお願いいたします。

昨年の七月末に突然電話をいただきました。「父がお世話になった学校。ふと父を思い出して電話しました」と

と、電話の主は初代校長芝原彦十先生のお孫さん西野良子さん。親しくお話をさせていただきました。

この電話が縁で三か月後、東京杉並区の西野さんのご自宅にお邪魔しました。西野さんは九十二歳のご高齢ながらも矍鑠として開校当時の学校の様子等お話をしていただきました。当時の生活を知らずには一級品の史料ではないかと思ひますので、百年誌等でご紹介させていただきます。いつか力パンの中に下農の校舎全景のハガキを入れていて、時々見ると懐かしんでいるとのことでした。帰り際に、百周年記念事業のお祝いに

女生徒でありまして、学校内でも明るく活発であり、種々の面でプラスになっておりますが、それに合わせて女性の同窓会員も年々増えて来ており、約五千人にならんとしております。女性同窓生で組織しております稲穂会の活動が重要になってきております。現在も活発な活動をしておりますが、一層の充実を図って参りたいと思つて居ります。

最後にこの稲丘時報が一人でも多くの同窓生に配布されます事と、同窓生皆様の御健勝、御発展を御祈念申し上げます。

ということでご厚志をいただいでしまし下農への深い愛情と熱い思いに接し感激いたしました。百周年式典に出席していただくことを約束していただきました。

校長室に芝原彦十先生が揮毫された瑞気満堂の扁額があります。良いことが堂(建物)に満ちているとのことですが、この書にふさわしい学校であり続けたいと願っています。西野さんをはじめ、多くの同窓生から母校に熱い思いや期待を寄せていただいでいることに思いを致しながら教育活動に努力していきたいと思ひます。

今後とも、母校に変わらぬご支援ご指導をいただきますようお願い申し上げます。

支会・部会・OB・OG会だより

稲穂会行事と参加を御願ひします

稲穂会部長 城田 美津子(高15回卒)

昨年度の大雪山により、二
十五年年度の総会(満豪開拓
記念館に於いて研修をかね
て)を行う予定がキャンセル
になり大変残念でした。

第九回マレットゴルフ大
会は、六月十四日(土)信州
まつかわ温泉清流苑マレッ
トゴルフ場で天候にも恵ま
れにぎやかに開催出来まし
た。各コースから感動のさ
げび声や笑い声が聞こえ幸
せな時を共有
することが出
来ました。マ
レットで楽し
んだ後、おい
しい昼食をい
ただきながら
懇親会が盛り
あがりました。
会から学校か
ら沢山のおみ
やげをいただ
き帰路につ
きました。

役員をお受
けして稲穂会
員皆様方との
出会いがあり、
生徒をほめま



マレットゴルフ開会式(信州まつかわ温泉清流苑にて)6月14日

第二十三回大会を振り返り

事務局長 飛矢崎 義(高22回卒)

第二十三回を迎えた下伊
那農業高等学校同窓会親善
ゴルフ大会が平成二十六年
六月二十六日に、あららぎ
カントリークラブに於いて、
二百四十名余りの参加をい
ただき盛大に開催されまし
た。年に一度の同級会、地
域の仲間との親睦会など色々
なかたちでの参加がありそ
れぞれにゴルフを楽しませ
たと思います。梅雨の時期
でしたが天候にも恵まれ、
また事故もなく無事終了す
ることが出来ました。関係
されました皆様に感謝申
上げます。

幹事会で検討頂き、今大
会より恒例のチャリティー
を参加者全員の方にお願ひ
することにしました。皆様
快くご協力いただき多額の
チャリティー金を贈呈する
ことが出来ました。ご協力
ありがとうございました。
シヨートホールでワンオ
ンされた方には記念品のお
渡しをしました。皆様には
ご意見、感想などお聞かせ
願えれば今後の大会運営に
生かしたいと思ひます。表

表彰式には同窓会長、校長先
生、木下様に参加頂き挨拶
を頂きました。
又賞品につきましても同
窓生、協賛各位、賞品係の
皆様のご協力により多くの
賞品をお渡しすることがで
きました。飛賞に付きまし
ては従来五飛でしたが今回
は、表彰式の終了時間も考
えまして十飛とさせて頂い
たできました(内容は良くし

下農同窓会親善ゴルフ大会成績

支会対抗の部		
優勝	大島・生田支会	
準優勝	上郷支会	
3位	伊賀良支会	
4位	市田支会	
5位	河野・川路・下條・東京支会	
個人の部 (敬称略)		
優勝	原 寿彦	市田支会
準優勝	原 武義	伊賀良支会
3位	細江 里志	大島・生田支会
4位	松下 弘文	大島・生田支会
5位	日置 善隆	上郷支会
6位	下平 和史	竜丘支会
7位	宮澤 秀夫	上郷支会
8位	木下 公人	鼎支会
9位	伊藤 宗夫	鼎支会
10位	松岡 武人	河野支会

てあります。)。表彰式の進
行に付きましても競技委員
の皆さんのご努力によりス
ムーズにできました。表彰
式終了後各支会で反省会な
どの予定もあると思
いますが大勢の皆さ
んが表彰式に参加出
来るようご協力と、
ご意見、ご要望をお
聞かせください。最
後に、大会に参加さ
れた皆様、運営に携
わった関係の皆様
に感謝申し上げます。
二十五回大会、下農
創立百周年記念大会
(あると思ひます)、
節目の大会に皆さん
元気で参加されるこ
とをお願ひし、第一



表彰式(個人の部)



第二十三回卒業同窓会

寺沢 寿男 (高23回卒)

私達二十三回卒業生は、去る七月五日還暦同窓会を行いました。当初は二月十五日に計画しましたが、当日一〇〇年に一度の大雪となりやむなく延期し今回の開催となりました。

当日は、九十名余の皆さんに出席いただき何十年ぶりの再会に思い出深い会となりました。地元で活躍されている方ももちろん県外からも多くの方が出席いただきました。

来賓として今村・伊藤両先生に出席いただき懐かしい思い出話をいただき一同感激しました。ご高齢のなか私たち教え子に対する愛情と母校に対する熱い思いをお聞きし感謝すると共に健康に留意され長生きされることをお祈りします。

また同年でもある横前先生から母校の在校生の学びと活躍の様子についてお話を聞き大変頼もしくうれしく思うと共に時の流れを感じました。私達のころは農業・園芸・林業・生活科でしたが、今は時代の流れに沿った「科」となり地元でも人気が高くマスコミ等への登場機会も多い様子今後も期待しております。

もかわならず大変上手に歌い一同満足しました。

還暦の節目での同窓会でしたが、今日までの歩みは一人一人それぞれですが、また新たな出発点に立ち次の時代にむかつて「年に合った一生き方をし数年後健康で再会することを誓い締めくくりました。卒業して四十年以上経ちますが「質実剛健」と「少年よ大志をいだけ」の言葉は今も我々の心にしつかり残っておりま

私達が在学三年生の時が五十周年でした。当時盛大に記念事業が行われましたが、二〇二〇年には一〇〇周年となるとのこと。益々母校に対する地元の期待は高まると思いますが、我々二十三回生も健康で社会貢献をしその時を迎えたいと気持ちを新たにしました。会は、最後に元応援団の指揮のもと「旧校歌」を歌いました。何十年ぶりに

なる前進を二十三回同窓生一同期待しております。

第三十八回卒業同窓会開催に向けて

佐々木 茂樹 (高38回卒)

私たちが卒業してから三十周年を迎える今年「同窓生に呼びかけて皆で記念の祝宴を行つたら」との発案に賛同した仲間が協力し、標記の同窓会を行うことになりました。まず各クラスから数人の幹事を選出し、一年前から少しずつ計画を進めてきましたが、今年の七月十一日(土)シルクホテルにて執り行うことを決定しました。

現在、下伊那農業高等学校、創立八十周年の会員名簿をもとに、案内発送のた

平成26年度の支会総会開催状況

本年度の支会における、総会の開催や諸活動を紹介いたします。

- 座光寺支会 総会 三月三十日(月)
- 下久堅支会 総会 五月十八日(日)
- 河野支会 総会 六月七日(土)
- 東京支会 総会 六月十四日(日)
- 伊賀良支会 総会 七月十六日(水)
- 神稲支会 総会 マレットゴルフ大会 七月二十日(日)
- 上郷支会 総会 七月二十一日(月)
- 龍江支会 総会 八月二十四日(日)
- 山本支会 総会 マレットゴルフ大会 十月二十五日(土)
- 喬木支会 総会 マレットゴルフ大会 十一月二十四日(月)

事務局には、支会担当の幹事があります。支会よりの要望等があればお寄せください。





神稲支会総会に参加された皆さん

●同窓会・神稲支会 活動の現況について

事務局長 壬生 一昭 (高11回卒)

平成二十六年度神稲支会の定期総会が七月二十日交「ゆめあるて」にて行われました。当支会は、歴代の会長さんを中心

に、役員の方々が母校への熱い思いと感謝の気持ちで支会活動を継続して来て頂きました。先輩の皆様には、感謝申し上げます。現在会員は約二百五十名で、事業は年一回の役員会、監査会、定期総会、親睦目的のマレットゴルフ大会、本会事業の同窓会親善ゴルフ大会への参加(支会より補助)、女性部事業等です。支会の組織は、正副会長、正副事務局長、地区内が十五支部に分かれそれぞれの支部長さんが責任をもって稲丘時報の配布と会費の徴収(年会費五百円)、総会とレクリエーション大会への参加呼びかけ等行っており居ります。今年の総会当日は、晴天に恵まれ、総会前の親睦マレットゴルフ大会を行う事が出来ました。十八ホール和気藹々同窓会ならではの楽しい大会が出来ました。終了後、定期総会は、菅沼支会長より本会代議員会の報告、母校創立百周年事業に向けての説明等を頂きました。続いて校内幹事支会担当の神藤先生より一般財団法人稲丘会の経緯について、母校の現況、クラブ活動、生徒達の活躍の様子等説明して頂き、神藤先生の乾盃で懇親会が始まりました。先輩後輩年代を忘れ学生当時に語り合い同窓会ならではの楽しい一時を過ごす事が出来ました。最後は元応援団長の指揮で旧校歌を歌い、先輩の万才で閉会となりました。神稲支会、よろしくお願います。

●同窓会・上郷支会 活動の現況について

支会長 久保田 龍夫 (高12回卒)

上郷支部の現況につきまは、地区内同窓生の親睦を図ると共に、地域の発展に努めることを目的に、事業、各活動を行っております。

会員は六百余名で地区ごと十班に編成し、会長、副会長、幹事、相談役、事務局、会計監事、稲穂会の各役員により、構成をして目的達成のため、総会、役員



上郷支会総会では事務局担当者が司会進行を行なう



上郷支会総会に参加された皆さん

母体主催の支会対抗ゴルフ大会には、大勢の人が参加して活力ある楽しさを持って、行っております。反省会も元気にあふれ、有意義なひとときです。稲穂会の参加も、マレットゴルフ大会、上郷支部班長会、全体会議、役員会等行っており、女性の積極的な参加を期待しています。支会発展のため、地域への貢献のため、会員の皆様方の事業への参加協力をお願い申し上げます。



平成年八人
権擁護委員に
松尾地区から
推選された際

たいだが、諸
般の事情で帰
郷、三十三歳
の若さで飯田
市議会議員に
初当選、以後
五期十六年に
わたって務め
ている。

同氏は昭和
二十九年三月
本校農業科卒
業、同三十三年三月日大経
済学部卒業
その後東京で
新聞雑誌記者
として活躍し

昨年六月まで六期十八
年 法務省人権擁護委員を
務め飯田協議会や長野県連
合会の会長、全国連合会副

皇居に参内し、天皇陛下に
拝謁の荣誉と、温かいお言
葉を賜わった際の様子を感
激深く話してくれた。



●秋の叙勲
「瑞宝双光章」受章に輝く
茂木立好則氏(高6回卒)

会長の要職を
担った茂木立好
則氏(高六回卒)
が、平成二十六
年秋の叙勲で「瑞
宝双光章」を受
章された。
さる十一月七
日夫婦ともども

は「議員時代の支援に恩返
しできれば」との思いと、
あたかも「いじめ問題」が
大きな社会現象としてクロ
ズアップしていた中で「少
しでもお役に立てれば」と
受諾した。

就任当時は、人権啓発や
特別相談等すべて、長野地
方法務局飯田支局主導のも
とで実施されていたが逸早
く委員組織による「自主運
営」に切り替え、事務局の
立ち上げと、支局の一室に
常設相談所を開設して、自
らその任に当たった

任期中取り組んだ相談数
は四七〇〇件。うち侵犯事
案として処理したもの、二
一〇件。「子どもや高齢者障
害者といった社会的弱者や
困っている人々も擁護した
い」の思いを力に多彩な案
件に携わった。「おかげで解
決できた」。相談者からの感
謝を喜び、糧とした結果だ
という。

趣味は囲碁、家庭菜園。
退任後は「晴耕雨読」を好
むが、子や親の虐待、いじ
め、バワハラ、偏見差別等々
相次ぐ「人権侵害」の報道
に不安を感じている。「人権
が尊重される社会に向け今
後も啓発の火を燃やし続け
たい」と力を込めた。

※同氏は初代校長芝原彦十
先生の謹書「瑞気満堂」
を本校に寄贈され、校長
室に掲げられています。



堀本写真館様撮影 卒業アルバム用写真より抜粋
校舎寸景

「銀座NAGANO」イベント

アグリ研究班顧問 小池 眞理子

アグリ研究班は、アグリサービスクの一年生から三年生までの生徒で構成され年間通して援農活動や環境保全活動、地域交流活動等を行っている研究班です。

ここ数年、班活動の研究テーマを「駆除鹿の有効活用」として、農林業に対する鳥獣被害対策として駆除されているニホンジカを「山の肉」として一般家庭でも食肉として流通が可能かどうか探っています。

一般家庭でも鹿肉を牛・豚・鶏肉と同じように扱ってもらうためには、鹿肉の美味しさを知ってもらうことが必要であるということから、昨年度より鹿肉料理を提供してきました。昨年度は、川路地区のそば普及組合の方々と「天龍峡温泉交流館」で季節限定のそば屋を共同運営させていただく中で、「ハヤシカライス」鹿肉ぎょうざ」を提供し好評を得ました。アンケートでも「意外と美味しい」「また食べたい」という感想をいただきました。

そこで、もっと大勢の方々に食べてもらう機会が増えれば、鹿肉の需要が増え、駆除後の廃棄率の低下にも

つながると考え、今年度も鹿肉を活用するプロジェクトに取り組みことにしました。

昨年度までの活動に加え今年度アグリ研究班で挑戦したのは、都会の人に鹿肉を食べてもらい、長野県の農業に対する鳥獣害を知ってもらうこと、駆除された鹿はほとんどが廃棄されていること、牛豚肉にひけをとらない程美味しいことを知ってもらうということ

です。ちょうど十月末に東京銀座に長野県のアテナショップ「銀座NAGANO」がオープン、そこで十二月に「南信州ウィーク」のイベントのひとつとして出店させていただきました。信州ジビエ高校生アグリレストラン&マルシェ」と看板を掲げ準備がスタートしました。

レストランの企画運営：やると言ってみたものの、メニュー構成や調理技術、サービスク提供など素人同然の私達。そこで、専門家に指導を仰ぐことにしました。指導をお願いしたのは、ジビエ料理の第一人者であり過去に高校生レストランの経験がある「オーベルジュ

エスポワール」の藤木徳彦シェフです。

八月に研究班員と共にレストランを訪れ、自分達の思いを伝えました。藤木シェフから、その思いを料理で表現しようと協力を快諾していただきました。その日から、本番まで藤木シェフを含む五名のレストランスタッフの皆さんから指導をいただきました。レストランの休日を利用して、学校まで来ていただき、技術指導やサービスク指導、料理の味つけのコツや仕込みの段取りを熱心に教えて下さり、また、生徒達も懸命に答え自分のものにしようとする

姿がうかがえました。

今回の出店のコンセプトは、鹿肉を中心としたメニュー構成で鹿肉の美味しさを知ってもらう、料理の材料は地元産、学校産のものを使用し、南信州や学校の良さを知ってもらうということでした。農産物を生産し調理、加工するという一連の過程を体験できる農業高校の良さを前面に出したいという生徒達の母校愛、自分達の育った地域にある素晴らしい素材を紹介したいという地元愛にあふれたメニューが出来、自信を持って当日の本番を迎えました。

十二月三日、二回のランチ、計六十名のお客様に、「下農フレンチ」を味わっていたいただきました。又、料理の間には、料理や原料の説明、学校の紹介を映像を使いながらプレゼンテーションも行い、会場からは質問が出たり、生徒達へエールをもらったりと盛会となりました。生徒一人ひとりが生き生きと自信に満ちた顔でお客さまをもてなす姿は、何ヶ月もの間、様々な方々と関わりながら積み上げてきたコミュニケーション能力の賜であると感じました。終了後のアンケートから「鹿肉美味しかった。南信州に行って、現地で鹿肉を買って料理してみたい。」「ふるさと味の満喫した。」「説

の活躍



11名のアグリ研究班メンバー

明もわかりやすく食材に親しみがわいた。」「農業高校の存在を知り、どんな取り組みをしているのかわかって良かった。これからの日本農業に期待したい。」「思いがこもった料理に感激した。」「などの感想が多く、当初の目的は達成できたと思えます。と同時に新たな課題も見つかり、課題解決

のため活動を継続していきます。最後にりましたが、今回の取り組みにあたり原料提供をいただいた園芸クリエイト科、食品科学科、星野屋様、千代地区・川路地区・小野子地区の皆様、保護者の皆様、同窓生の皆様に感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

アグリ研究班の活動

アグリサーブスコ3年
アグリ研究班班長

吉川 貴之

私達、アグリ研究班では、十二月三日に東京にある長野県のアンテナシヨップ「銀座NAGANO」で一回三十人限定で二回、計六十人対象にレストランイベントを行いました。今回提供した料理は、コース料理で、この下伊那地域で獲れた食材を全ての料理に使い、水

なども全て持参しました。食材のメインには、鹿肉を使用しました。なぜ、鹿肉を使ったかと言うと、現在下伊那地域は特に、野生鳥獣害が多くその中でも鹿は、捕獲されることが多く、元々私達アグリ研究班では、捕獲された



サポートいただいた「エスポール」の皆さんと記念撮影

在校生

鹿の利用方法などを研究していたからです。

また、なぜコース料理全てに、下伊那地域で獲れた食材を使用しているかと言うと、東京の皆さんにこの下伊那地域の食材のおいしさを知ってもらうとともに、下伊那地域についてよく知ってもらうためです。

そもそも、この活動が始まったきっかけは、先生から、こんな活動をしてみないかと言われたことです。

私達、アグリ研究班はもともと人数が少なく、部員を増やす事から始めました。そして部員をなんとか十一名まで増やし、その十一名の中で分担を決め、その人達を中心に、各料理の構成を決めていきました。そして、ジビエ料理で有名な藤木徳彦シェフ率いる「オーベルジュエスポール」の方

達にも協力していただきました。藤木シェフに言われた事は、「自分達がおいしいと思った料理しか提供してはいけない」ということです。何度も試作を繰り返し、その度に、みんなが改善点や意見を出し合い、自分達の納得いくコース料理にしました。

今回苦労した点は、野菜など素材本来のおいしさを、どうやったら伝えられるのかという所でした。素材本来のおいしさを伝えるには、適切な塩と火加減で、調理をするという事が分かりました。

良かった点は、最初は、おいしいと言ってもらえるか不安でしたが、お客さまにおいしいと言ってもらえた事です。

この活動をとおして、自分達の住んでいる下伊那地域には素晴らしい食材がたくさんあることが再確認できました。これからアグリ研究班を通じて地域の良さを発信していきたいと思

います。



調理中の遠山君

私は、十二月六日に東京で行われたミートデリカ食肉野菜コンテスト全国大会に長野県代表として参加しました。

私が作った料理は、鶏肉のピタロールとトルティヤ風です。この料理のベースは、ピタパンといってピザ生地のようなうすいパンを半分に切りその断面に切り込みを入れその中に野菜やお肉を詰め食べる料理です。この料理をもっと食べやすくする為学校で試行錯

ミートデカコンテストに出場して

アグリサーブスコ3年

遠山 翔

誤した結果が、トルティヤの様にピタパンでロール状にするという方法です。出発の前日に生地を焼いて当日、東京に向け出発しました。東京に到着し食材の買い出しに行く練習で使用していた食材がお店になかったり、焼いた生地を食べてみると時間がたつていて、パサついてしまっ

たので予測できない事態にありました。そのため練習や予選会で作った料理を再現する事ができず結果としては、賞を取ることはできませんでした。正直とても悔しい思いをしました。と同時に全国大会というあの場で調理できた事は自分にとって自信につながりました。審査員の方も、和の鉄人の中村光明さんなど日本の料理界でも名だたる方ばかりで調理の際にもアドバイスをいただいたり、将来調理師を目指している自分にとっては、とても良い体験になりました。

今回調理したピタロールを今回の大会で見えた課題を直してこれから研究していきたい皆さんの人に食べてもらえるような料理にしたいと思

吹奏楽班10年ぶりに東海大会出場

吹奏楽班顧問 征 矢 紗代子

同窓会の皆様におかれましては、楽器更新基金等々、日頃から大変お世話になっておりますことを感謝申し上げます。

さて、今年度の吹奏楽班は「進化」努力からの成功を目標に二八名で活動して参りました。私自身、今年度より仲間入りさせて



演奏後の記念撮影

頂きましたが、練習熱心な生徒の姿に感心したのと同じに、演奏面以外に礼儀や行動面において改善しなくてはならない点が多くあるな、とも感じました。一見吹奏楽とは無縁と思われることでも、例えば、基本である挨拶が当たり前にできれば自然とコミュニケーションがとれ、自から何か発信することもでき、それが心一つに演奏する、人に伝え届ける音楽を創り上げる、ということにも繋がります。まずは普段の生活を見直し、そういったことを大切にしよう、挨拶や返事の練習、校内清掃からスタートしていきました。

私達が出場した大会、小編成の部は七分間という時間が決められています。その「七分間」のために、生徒は毎日本気で向き合いました。いくら練習しても上手いはず何度も悔し涙を流したり、真剣に取り組むが故に仲間と衝突しあったりと、多くの困難もありました。しかし決して諦めず、みんなで支え合いながら壁を乗り越えていく度に成長し、二八人が本当の仲間となつて県大会では全員が一

つになつた素敵な演奏をしてくれました。その結果、東海大会出場という最高のご褒美が頂けたのだと思います。

このような評価を頂くことができたのは、決して自分たちの力だけではなく、同窓会の皆様はじめ、いつもご理解ご協力下さる保護者の方々、先生方、応援して下さいる多くの方々のお陰です。これからも感謝の気持ちをお忘れすることなく、吹奏楽を通して人間的にも成長していけるよう努めて参ります。

心をひとつに

吹奏楽班班長 平 栗 歩 実

そして迎えた県大会当日。今まで練習してきた事、すべての想いを曲に込めて演奏しました。表彰式では、出場した三十の各校に金・銀・銅の各賞が演奏順に発表され、金賞受賞校の中から代表三校の校名が呼ばれます。三校目に「下伊那農業高校」と呼ばれ、ステージ上で表彰を受けた私は涙が止まりませんでした。客席にいた職員と一緒に、喜びの声を上げられなかった事は残念ですが、人生の中でも最も劇的な瞬間になりました。



県大会演奏の様子(ホクト文化ホール)

全国産業教育フェア 高校生フラワーアレンジメント大会銀賞

草花班顧問 小澤直子

今回、全国大会銀賞受賞という結果を得られたのは、日頃より、応援してくださっている同窓会の皆様、地域、校内の様々な方のお力添えあつてのことで本当に感謝しております。

今年度は全国大会の予選となる、農業クラブでのフラワーアレンジメント競技は本校が運営校でした。その為、年度当初から、農業クラブ顧問の先生をはじめ、多くの方々が関わって下さり、その恩返しをしなければと、生徒共々頑張ること



県大会にて受賞後(下農開催)

が、大会での経験を元に、アレンジメントの講座なども任せていただき、大会出場生徒が講師として、生徒主体で講座を行えたのも、このような経験があつてのことと思います。

全国大会は、県大会から四ヶ月ほどあいており、本人も通常所属の班活動もある為、本格的な練習は全国大会一ヶ月前を切つてから開始しました。自分で用意した花材を使う県大会と異なり、全国大会の花材は大会本部が用意したもので、当日発表の花材もありません。そんなわけで、本番頼れるのは自分自身だけですので、作品練習においては、自ら判断し、制作できるように、そして、なるべく多くの花材に触れられるように協力しました。芸術系の分野であるので、そもそも「優劣をつけられる」ということへの葛藤もあつたつとも、そこは「競技」と名のつくものですので、完成度が高い、粗がない、そして大きな作品を作ることを目指して、練習に取り組みました。全国大会に出発する前日練習の作品がなかなかよい出来でしたので、あとは、当日発表の花材が、練習で使用したものであることを祈りました。当日は初めて扱う花材もありましたが、生徒自身が、楽しんで競技できたこと、それまで積み上げてきた力が活きた結果、受賞につながったのだと思います。ご支援、誠にありがとうございます。

努力が自信に

園芸クリエイト科3年 畠山真代

私は元々花が好きで下農に入りました。二年時に初めてアレンジメント大会に出場した時は、言われた通りに花を挿すことで精一杯でしたが、三年生になり、授業でもアレンジメントの勉強をする中で、フラワーアレンジメントとは「花を整理・配列する」という意味があることを知りました。練習を繰り返す中で、「花を整理する」という意味を実感するようになりました。花にはそれぞれ特徴があり、それを活かすことがとても重要です。せっかくな美しい

ラインを持つている花を短く切つて使用することは、その花の持ち味を殺してしまふことになるのです。全国大会は県大会と異なり、全ての花材は大会本部が用意したものを使用します。事前に公表された花については、持ち味を活かす配置、そして大きな作品を作ることを重要視して、練習をしました。

全国大会での入賞は出場者六十二名中十名です。最善を尽くすつもりではいましたが、賞のことを考えるより、「フラワーアレン

ジメントを楽しもう」という気持ちで挑みました。作品は、自分なりにはよく出来たという感覚でした。結果発表で、自分の名前が呼ばれたときは、本当にびっくりしましたが、賞状を頂き、受賞を実感しました。

今回の経験で、練習を何回も行うことで、基本的な技術、さらには応用力もつき、自分に自信が持てるようになりました。また、大会に行かせて頂き、沢山の作品を見て勉強できたこと、沢山の応援があり、練習も本番も頑張ることができたことは周りの方々のおかげです。貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。



全国産業教育フェアにて(宮城県)

創立百周年記念事業

進捗状況報告

同窓会校内幹事長 横 前 元 (高23回卒)

本校は創立以来、十周年を節目に記念事業を実施してまいりました。大正九年に地域の農業振興を目的に郡立下伊那農学校として誕生以来、県立移

に百周年を迎えます。平成二十六年同窓会代議員会(平成二十六年五月二十四日開催)にて、代議員の皆様の賛成多数により、「創立百周年記念事業大綱」が議決されました。

創立百周年記念事業大綱は以下のとおりです。事業名を長野県立下伊那農業高等学校創立百周年記念事業とし、本校一世紀にわたる教育活動の歩みを振り返り、これからの新しい時代に対応した学校のあるべき姿を展望し、将来の発展に期することを趣旨としています。主催は、同窓会・PTA・学校の三者が一体となった長野県下伊那農業高等学校創立百周年記念事業実行委員会を組織し、地域の皆様

の協力を得て、平成三十二年秋に式典・祝賀会を挙行予定です。あわせて、農業学習施設建設・学習環境整備・記念誌発刊等の記念事業を計画しております。記念事業の主体となる農業学習施設建設は、生徒のための時間的

な制約を受けない、教科学習の発展や進学補習など多用途・多目的な利用施設をと考え、農場の一面を予定し、建坪八十坪の二階建てとします。また、ここに農業資料館の併設も考えています。学習環境整備としては、創立八十周年のおり購入していただいたマイクロスロアの更新を計画しています。このマイクロスロアは、班活動・教育活動等に有効に利用させていただいております。記念誌に関しましては、一世紀を鑑み、現在そして未来への展望が掲載できればと考えます。こうした記念事業を推進するにあたり、多額の経費が必要となります。この経費につきましても、皆様方からの募金をもって補填したいと考えております。なにとぞ、ご理解・ご協力のほどよろしく願います。まだまだ緒に就いたばかりであり、今後は長野県下伊那農業高等学校創立百周年記念事業実行委員会を組織し、より具体的な企画立案をおこない、皆様方に報告をして参りたいと思っております。

来る平成三十二年の周年事業が盛会裏に終了し、その後の母校発展の礎にならんことを願ひ、現況報告といたします。

同窓会ホームページ開設

同窓会校内幹事 北原 千歳 (高31回卒)

学校ホームページ上に同窓会ホームページを開設しました。二十二年には創立百周年を迎えます。飯田・下伊那地域をはじめとし、多くの卒業生が活躍しております。このホームページは創立百周年の記念すべきその行事に向け、本校卒業生の皆様に対しての情報発信を目的としております。あまり内容が充実しておりませんが、順次内容を充実させていく予定しております。現在創立八十周年誌における「学園の歩み」の部分は、園芸クリエイト科一年生の「農業情報処理」ホームページ作成検定に向けての導入として、活字化を実施しました。また、稲丘時報も、過去三年間について、PDF形式で公開しており、この号につきましても公開していく予定です。近隣の学校のように更新頻度は高くはありませんが、ご覧頂ければ幸いです。以下URLです。



各HR教室に設置された扇風機

各HR教室に設置された扇風機

各HR教室に設置された扇風機



<http://www.nagano-c.ed.jp/simonou/dousoukai/index.html>

会 務 報 告

同窓会幹事長 横 前

元 (高23回卒)



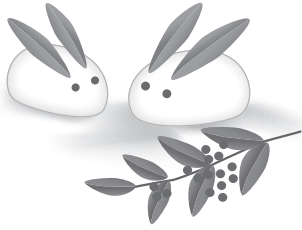
本年度より同窓会幹事長の任を担うこととなりました。もとより微力ではありますが、全ての同窓会活動が円滑に進められるよう努力する所存でありますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。支会総会など数多くの場で、母校への熱い想いを伺います。こうした想いを大切にして、活動して参りたいとも考えています。

さて、本年度は二月の記録的な大雪を始めとして、気象において冠に記録的という言葉が何度も使われるほど異常な状況でした。こうした状況下ではありましたが、会員の皆様方には益々ご健勝で活躍のこととお慶び申し上げます。

本年度も五月二十四日に同窓会理事・代議員会が開催され、平成二十五年度事業・決算報告をはじめ、平成二十六年度事業計画・予算案が承認され、正式に事

業がスタートしました。二十六年度事業報告では、活発な稲穂会活動や盛会裏に終了した親善ゴルフ大会、支会活動状況をはじめとする諸事業の報告が行われました。二十六年度事業計画の目玉として、創立百周年事業に向けての新たな取り組みが議決されました。創立百周年記念事業への取り組みは、「創立百周年記念事業進捗状況報告」として掲載しておりますのでご覧ください。

いよいよ百周年記念事業の基盤作りに入ります。会員の皆様方におかれましても、百周年記念事業に向け、あわせて母校発展のためより一層ご支援をよろしくお願いたします。



平成25年度 決 算 書

平成26年 5月24日 提 案 認
平成26年 5月24日

- 1 歳入総額 2,811,040円
- 2 歳出総額 1,641,986円
- 3 差引残額 1,169,054円

1歳入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			収入済額	比較増減	備 考
	当初予算額	流 用	計			
入 会 金	1,256,000	0	1,256,000	1,256,000	0	8000×157名
雑 収 入	536	0	536	276	▲ 260	利息、CD売上げ
繰 越 金	1,248,764	0	1,248,764	1,248,764		
終 身 会 費	306,000	0	306,000	306,000	0	2000×153名
そ の 他	0	0	0	0	0	寄付等
合 計	2,811,300	0	2,811,300	2,811,040	▲ 260	

2歳出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			支出済額	予算残額	備 考
	当初予算額	流 用	計			
1 事務費	465,000	0	465,000	327,955	137,045	
1) 旅 費	135,000	▲ 45,760	89,240	3,850	85,390	支会総会等の旅費
2) 事 務 費	60,000	0	60,000	43,810	16,190	プリンターインク・ロール紙
3) 通 信 費	20,000	0	20,000	0	20,000	郵送料・電話代
4) 消 耗 品 費	70,000	0	70,000	60,535	9,465	印刷用紙他
5) 負 担 金	30,000	0	30,000	24,000	6,000	地区同窓会負担金
6) 正副会長交際費	150,000	45,760	195,760	195,760	0	各種会議参加費等
2 会議費	260,000	0	260,000	192,685	67,315	
1) 役 員 会 費	30,000	0	30,000	9,450	20,550	監査会等
2) 代 議 員 会 費	170,000	0	170,000	123,235	46,765	代議員会
3) 幹 事 会 費	60,000	0	60,000	60,000	0	校内幹事会会議費
3 事業費	1,500,000	0	1,500,000	982,268	517,732	
1) 稲 穂 会 費	150,000	0	150,000	62,458	87,542	活動費・総会費
2) 事 業 推 進 費	370,000	▲ 20,160	349,840	189,710	160,130	支会総会の参加
3) 稲 丘 時 報 発 行 費	250,000	20,160	270,160	270,160	0	稲丘時報発行費
4) 同窓会林管理費	10,000	0	10,000	0	10,000	同窓会林間伐等管理
5) 新正会員歓迎費	50,000	0	150,000	150,000	0	校歌等CD購入用積立て
6) 稲丘会事業寄付金	200,000	0	200,000	200,000	0	(財) 稲丘会
7) 親 善 大 会 費	120,000	0	120,000	109,940	10,060	親善ゴルフ
8) 研 究 費	250,000	0	250,000	0	250,000	母校の将来を考える会
4 雑支出	226,000	0	226,000	139,078	86,922	
1) 慶 弔 費	120,000	0	120,000	83,078	36,922	祝儀・香典・弔電
2) 転退職職員記念品費	60,000	0	60,000	56,000	4,000	饌別
3) 雑 費	46,000	0	46,000	0	46,000	
5 予備費	360,300	0	360,300	0	360,300	
1) 予 備 費	360,300	0	360,300	0	360,300	
合 計	2,811,300	0	2,811,300	1,641,986	1,169,314	

平成二十五年度 会員の異動

同窓会員(名) 二十六年度三月卒業により
正会員になった人 一五三名
二十六年度四月入学により準
会員になった人 一六一名

正会員数 一八、〇八四名
旧制 二、四八九名
高校 一五、五九五名
男子 一〇、七三三名
女子 四、八六二名

会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

松澤 武司(十五回) 伊賀良
佐々木 慎二(三回) 鼎
小林 康人(旧二十四回) 鼎
佐々木 常夫(旧二十六回) 鼎
岡山 深志(旧二十四回) 稲沢市
中島 辰雄(三回) 川路

平成25年度卒業生(平成26年3月卒業)の進路状況

26.3.31現在

卒業生数		人数	比率	計	合計	アグリサービス	農業機械	園芸クリエイト	食品化学
男子	女子				合計	男子	女子	男子	女子
80人	73人			153	37	38	39	39	
				80	10	38	19	13	
				73	27	0	20	26	
				28	4	17	4	3	
				32	11	0	10	11	
				0	0	0	0	0	
				0	0	0	0	0	
				4	0	2	2	0	
				1	0	0	1	0	
				2	0	2	0	0	
				1	1	0	0	0	
				2	0	1	1	0	
				1	1	0	0	0	
				9	2	4	1	2	
				1	0	0	0	1	
				2	1	1	0	0	
				15	10	0	1	4	
				7	1	1	5	0	
				1	0	0	1	0	
				26	2	10	6	8	
				20	4	0	7	9	
				0	0	0	0	0	
				1	0	0	0	1	

進路状況

平成25年度(平成26年3月卒業)

卒業生の進路状況

進路指導部長 吉川博英

新規学卒者の就職に関しては、本校に届けられる管内求人数が昨年より大幅に増加し、五年前の数字にまで近づきました。企業によっては昨年度より求人数が倍増したところもありました。しかし、本校生徒の就職希望者数も昨年度よりさらに十三名増加しました。そのため、厳しい状況は変わりませんでした。そ

んな中学生徒たちは危機感を持って準備をし、試験に臨みました。その結果、年度内にはほぼすべての就職予定者が内定をいただきました。また、公務員には三名が合格しました。一次以降でうまくいかず残っていた生徒は、本校独自の高校就職指導サポートやハローワークとの連携を卒業した三年生は百五十三名。

利用した取り組みを行いました。残念ながら一名残ってしまいました。おの希望する企業等へ向かえました。

以下、今春の卒業生の進路概況について触れます。(別表参照) まず就職については、今春卒業した三年生は百五十三名。

工場、(株)コバックス、山京インテック(株)、シチズン平和時計(株)、(株)しなの工業、信州セキュアフーズ(株)、信菱電機(株)、(株)清風苑、津具屋製菓(株)、天恵製菓(株)、東海興業(株)、(株)ナガイ、夏目光学(株)、日星工業(株)、日邦電機(株)、(有)野中製作所、(株)富士電機2、(有)ホテル吉弥、(株)マイハウス社湯多里の里2、(株)丸中中根園2、向田電設(有)、(株)山岸イーアイシー、横浜ゴム(株)、(有)吉清、綿半テクノス(株)

県内
伊那バス(株)

県外
社会福祉法人愛知慈恵会、(株)工ナレッジ、(株)大木家、コスモ石油サービス(株)名古屋、自動車検査 独立行政法人、マルゼン美容室

専修・専門学校

看護医療5、調理製菓9、自動車整備5、理美容4、介護2・公務員5、保育2、電気・電子・情報3、造園、生物、動物5、プライダール・ファッション、その他4

就職 公務員

飯田市役所、飯田広域消防、自衛隊

管内

(株)アルスター、飯田精密(株)、飯田チーゼル(株)、(有)一茶堂、NSKマイクロプレシジョン(株)2、エヌティーツール(株)2、(株)お菓子のシアワセドー、小木曾建設、オムロン飯田(株)2、医療法人輝山会2、共栄ダンボール(株)、(有)クロスアート、クロダ精機(株)、医療法人健全会、小池建設(株)、コーケン香料(株)伊那

進学 4年制大学

東京農大2(応用化学・国際食料)、愛知学泉(現代マネジメント)、中京学院3(経営学)東海学院(心理学)、東海学園(経営学)、松本(観光ホスピタリティ)名古屋経済(管理栄養)

短期大学

東京農業(生物生産技術)、飯田女子12(家政7・幼児教育3・看護2)、川口(こども)、日本大(生物物質化学)、高山自動車(自動車工学)、松本大(幼児保育)

農業大学校等

長野県農業大学校5(総合農4・畜産実科)、林業大学校、八ヶ岳中央農業実践大学校(実践)、愛知県農業大学校(農業科)

編集後記

稲丘時報第七十九号が出来上がりました。多くの皆様から稿を寄せて頂き、ありがとうございます。改めて感謝と御礼申し上げます。稲丘時報につきましては、時代の趨勢の中、近隣の学校の状況を踏まえ、デジタルデータでも公開を始めております。一年間の活動をまとめる関係で冬場の発行に間に合っていないので、ご理解ご協力をいただければと思います。配布に際しましては、関係の皆様には大変お手数をお掛けしております。次年度につきましても、このようなスタイルでの実施を予定しております。

(稲丘時報係)